

令和6年度全国学力・学習状況調査
令和6年度徳島県学カステップアップテスト
結果及び分析の概要

徳島県教育委員会義務教育課

令和6年度 全国学力・学習状況調査における徳島県の結果概要

徳島県教育委員会

平均正答率(小学校)

	令和5年度			令和6年度		
	徳島県	全国	全国との差	徳島県	全国	全国との差
小学校 国語	66	67.2	-1.2	68	67.7	+0.3
小学校 算数	62	62.5	-0.5	65	63.4	+1.6

平均正答率(中学校)

	令和5年度			令和6年度		
	徳島県	全国	全国との差	徳島県	全国	全国との差
中学校 国語	68	69.8	-1.8	57	58.1	-1.1
中学校 数学	51	51.0	±0	54	52.5	+1.5

結果分析の概要

- 小学校については、国語、算数ともに正答率が全国平均を上回っている。
- 中学校については、国語の正答率は全国平均を下回ったが、数学の正答率は全国平均を上回っている。
- 小学校、中学校ともに授業改善が進み、一定の学力の定着が見られる。

教科ごとの結果分析

小学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	65.8	86.4	74.6	59.7	66.6	70.1
全国(公立)	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7
差	1.4	-0.5	0	-0.1	-1.8	-0.6

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	70.7	65.3	
全国(公立)	69.8	66.0	
差	0.9	-0.7	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	69.4	62.4	63.6
全国(公立)	69.9	59.7	64.6
差	-0.5	2.7	-1.0

◇成果が見られる点

文章中の「なげる」を、漢字を使って書き直す問題の正答率が高かった。

また、話し言葉と書き言葉の違いに気付き、話し方の工夫をすることや、日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つということに気付くことはできていた。

「知識・技能」に関しては7割を超え、全国平均を上回っている。

▲課題が見られる点

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。取材メモの内容を取り上げて、自分の考えを明確に書くことができなかつたと考えられる。

また、説明文において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することや、物語文において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】 → カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【児童のつまずきに応じた学習指導】 → 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
- ・『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル』を授業に取り入れる。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
- ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

小学校算数

学習指導要領の領域	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
徳島(公立)	69.2	66.3		52.3	63.3
全国(公立)	66.0	66.3		51.7	61.8
差	3.2	0		0.6	1.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	75.5	51.4	
全国(公立)	72.8	51.4	
差	2.7	0	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	77.3	63.6	52.1
全国(公立)	75.3	62.0	51.0
差	2.0	1.6	1.1

◇成果が見られる点

・【4(1)】除数が小数である場合の除法の計算をする問題(5年生「A 数と計算」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋8.8%)

筆算等を使った基本的な除算が理解できている。被除数と除数それぞれ10倍して計算する等、工夫した方法も大切である。

・【1(1)】問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題(2年生「A 数と計算」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋4.8%)

加法及び減法に関わる数学的活動を通して、加法と減法との相互関係について理解できている。

・【5(1)】円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題(5年生「D データの活用」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋4.0%)

データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、円グラフの特徴を捉えることと、データの活用方法が理解できている。

▲課題が見られる点

・【3(3)】球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題(3・5年生「B 図形」)の正答率が全国平均よりも低かった。(－2.7%)

徳島県では、 3.14 を用いた式を解答している児童が多く(20.5%)、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。この問題では、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さと同じになることを捉えることが重要である。

・【4(2)】速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察する問題(5年生「C 変化と関係」)の正答率が全国平均よりも低かった。(－2.6%)

徳島県では、10と解答している児童が多く(12.9%)、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。速さが一定であることから、時間と道のりが比例関係にあることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係をを用いることが重要である。

・【4(3)】道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題(5年生「C 変化と関係」)の正答率が低かった。(32.7%)

徳島県では、二人のうち片方が速いことや、二人の歩いた道のりが等しいことのみ言葉や数で説明できているが、二人のかかった時間がどちらが短いかを説明することができていない児童が多く(28.1%)、歩いた道のりとかかった時間両方に着目し、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いと考えたり、それぞれの速さを求めたりすることが重要である。

○授業改善のポイント

A 数と計算

- ・問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする指導の充実
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導の充実

B 図形

- ・図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実

C 変化と関係

- ・二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする指導の充実
- ・二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする指導の充実

D データの活用

- ・グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実
- ・問題を解決する過程やその結果を式に表すことができるようにする指導の充実

中学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	58.2	58.7	79.2	57.2	61.1	48.3
全国(公立)	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9
差	-1.0	-0.9	3.6	-1.6	-4.2	0.4

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	61.9	54.1	
全国(公立)	62.0	55.4	
差	-0.1	-1.3	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	60.7	62.1	41.8
全国(公立)	61.0	61.8	45.5
差	-0.3	0.3	-3.7

◇成果が見られる点

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして、適切なものを選択する問題の正答率は高かった。

また、文章中の「みちたりた」を、漢字を使って書き直す問題はできていた。

▲課題が見られる点

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。表現を工夫したり、自分が工夫した表現について、どのような効果があるのかを説明したりすることができなかつたと考えられる。

また、目的に応じて必要な情報に着目して要約することや、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の課題をまとめることに課題が見られた。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】 → カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【生徒のつまずきに応じた学習指導】 → 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
- ・「『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル」を授業に取り入れる。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
- ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

中学校数学

学習指導要領の領域	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
徳島(公立)	55.0	40.4	61.4	55.0
全国(公立)	51.1	40.3	60.7	55.5
差	3.9	0.1	0.7	-0.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	64.5	30.6	
全国(公立)	63.1	29.3	
差	1.4	1.3	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	58.7	69.2	30.6
全国(公立)	58.5	67.0	29.3
差	0.2	2.2	1.3

◇成果が見られる点

・【2】等式を目的に応じて変形する問題（2年生「A 数と式」）の正答率が全国平均よりも高かった。（+8.6%）

方程式を解いたり、関数関係を表す式とみて考察したりする場面において、文字について解くことを理解し、等式を変形することができている。

・【1】連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す問題（2年生「A 数と式」）の正答率が全国平均よりも高かった。（+6.4%）

数量及び数量の関係を捉え説明する場面で、事象における数量やその関係を文字を用いた式で表すことが全国平均よりもできている。

・【4】一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解する問題（2年生「C 関数」）の正答率が高かった。（+5.3%）

関数の特徴を調べるための式とグラフの特徴を関連付けて理解することができている。

▲課題が見られる点

・【9（2）】事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす問題（2年生「B 図形」）の正答率が全国平均よりも低かった。（-2.0%）

徳島県では、誤答類型において、どの項目においても一定数解答していることから、問題の理解がきちんとできていない可能性がある。

・【8（2）】ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表す式やグラフから事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題（2年生「C 関数」）の正答率が低く（16.1%）、全国平均よりも低かった。（-1.0%）

事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について説明することができていない。式を用いる場合は、二つの式に、 $y=0$ を代入してそれらの式から x の値を求めること。グラフを用いる場合は、二つのグラフの y 座標が0である点に着目して x の値の差を求めることや2点間の距離を読み取ることを記述する必要がある。「◇成果が見られる点」にあげている、「関数の特徴を調べるための式とグラフの特徴を関連付ける」ことができているが、実際生活の課題を解決する方法を説明する問題になると急激に正答率が下がることから、理解していることを数学的に説明することに課題が見られる。また、無解答率も高く、他の記述式問題でも無解答率が非常に高い問題もあるため、説明・証明等、記述式の問題にしっかり取り組む必要がある。

○授業改善のポイント

A 数と式

- ・数量及び数量の関係を文字を用いた式で表す活動の重視
- ・事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の充実

B 図形

- ・図形の移動の性質を見いだす活動の重視
- ・筋道を立てて考え、証明する活動の充実

C 関数

- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける活動の重視
- ・事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

D データの活用

- ・データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の重視
- ・四分位範囲を用いて分布の特徴を捉える活動の充実

○「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回った。

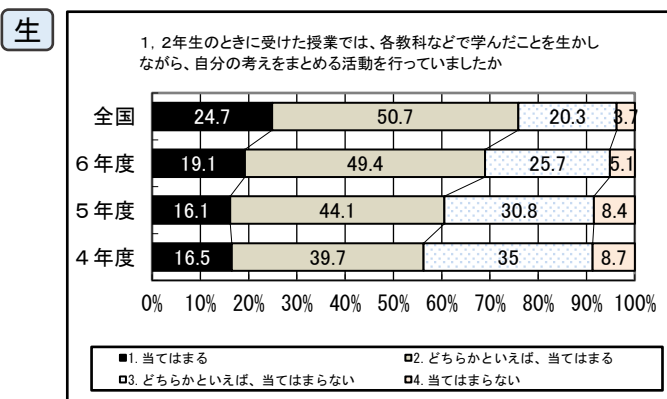
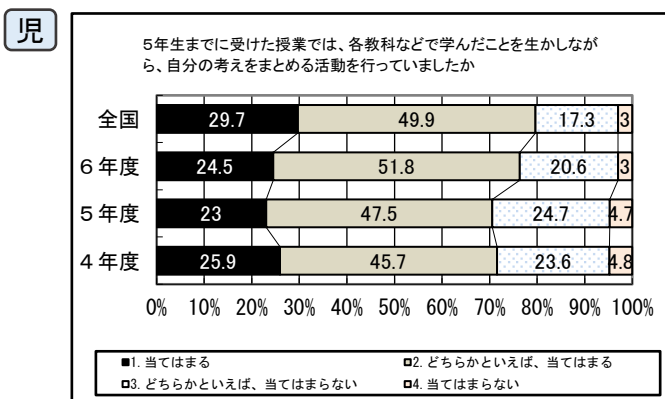
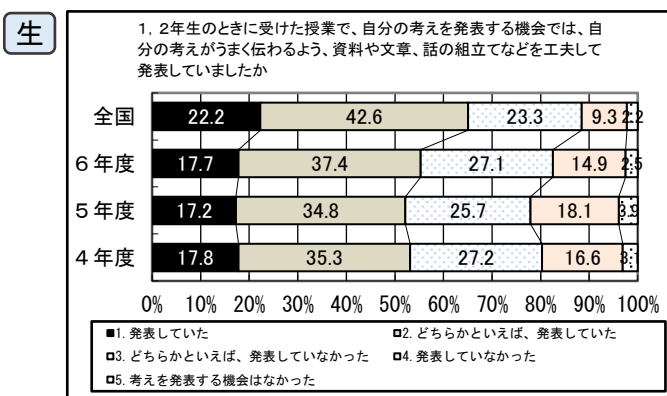
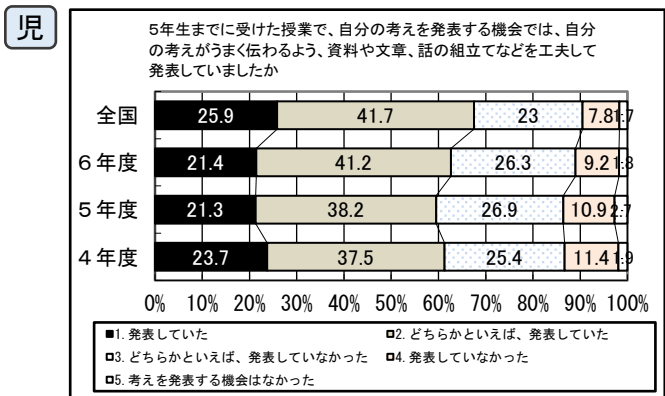
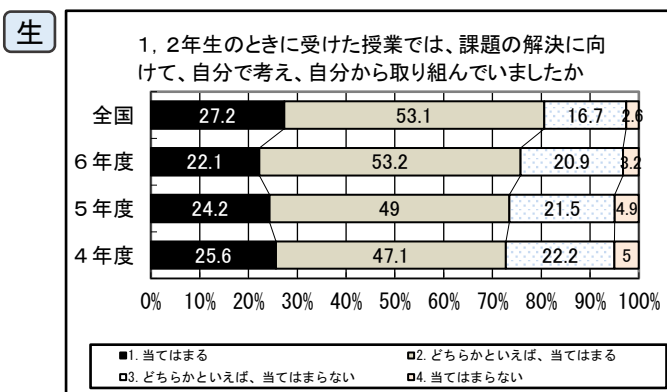
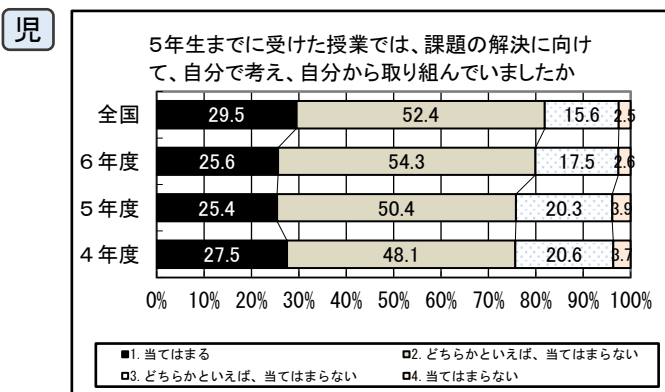
○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均とほぼ同じであった。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を上回った。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、前年度より向上したが、小・中学校とも全国平均を下回った。

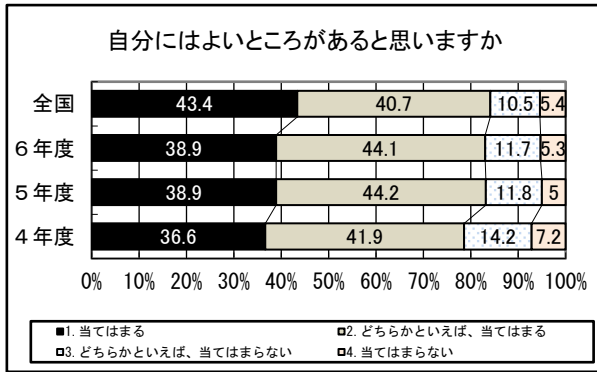
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、前年度より向上したが、小・中学校とも全国平均を下回った。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

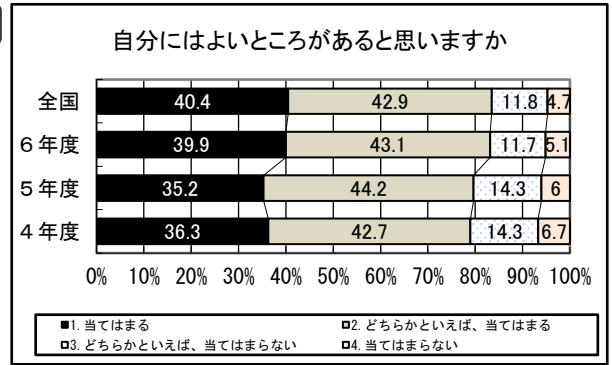


【自己有用感・幸福感等】

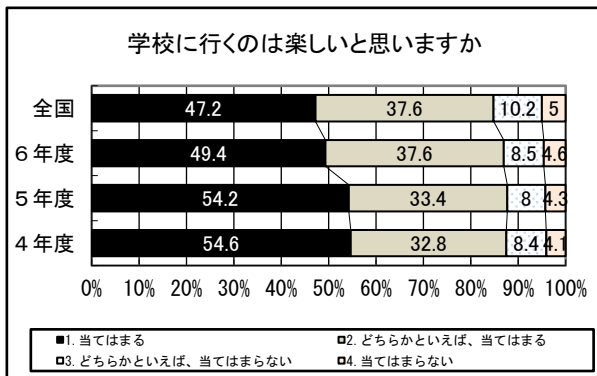
児



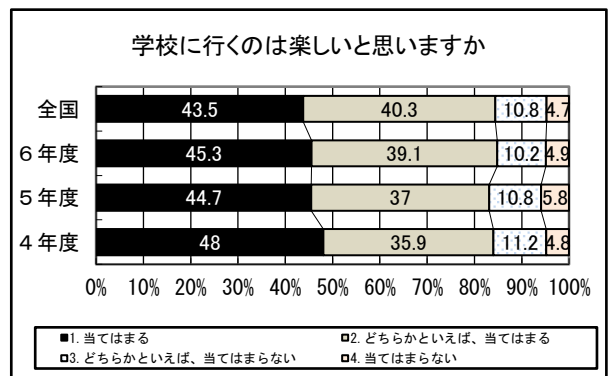
生



児

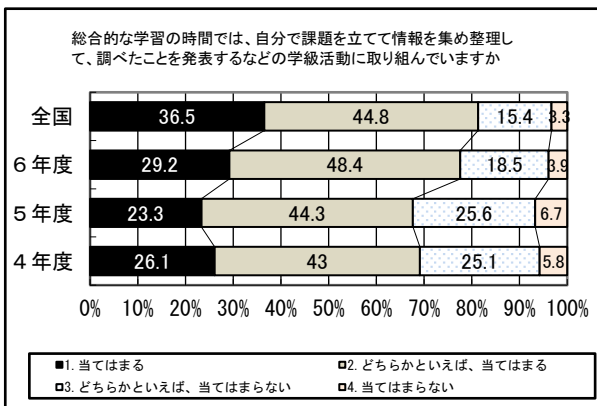


生

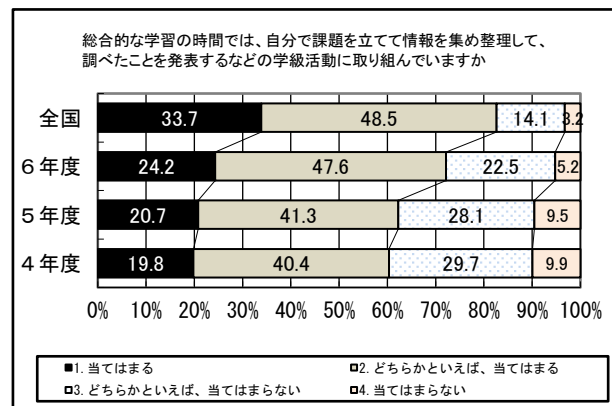


【総合的な学習の時間、学級活動】

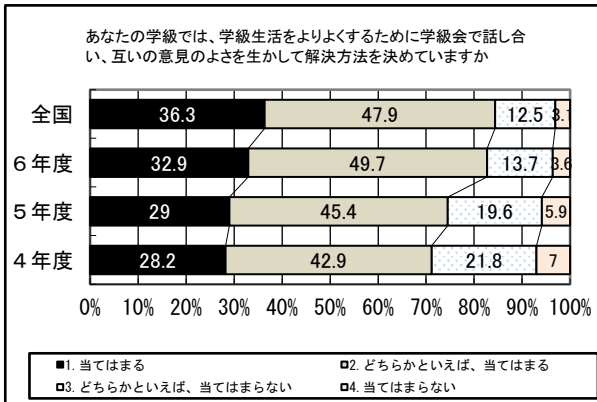
児



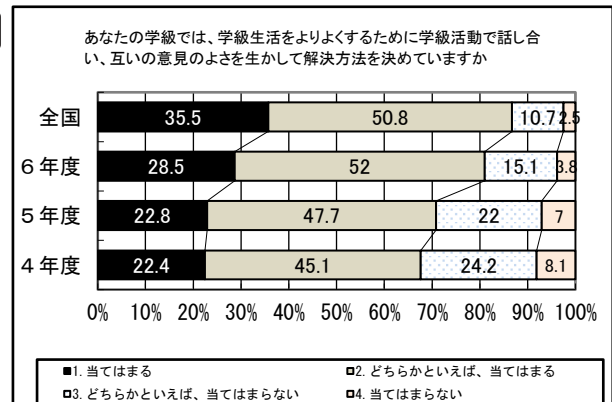
生



児



生



小学校国語（令和6年度）

（1）徳島県の「全体」と「各領域別」平均正答率

	全体	知識・技能	話す・聞く	書く	読む
4年生	54.3	71.3	37.9	40.7	42.7
5年生	41.0	38.6	45.5	48.6	30.7

（2）結果分析及び改善のポイント

（4）… 4年生、（5）… 5年生

「成果」

- ◇配当学年学習の漢字について、文の中で正しく使う。…(4)(5)
- ◇漢字の部首について理解する。…(4)
- ◇漢字の筆順について理解する。…(4)
- ◇辞書の使い方について理解する。…(4)
- ◇相手や目的に応じて、文末表現を使い分ける。…(5)
- ◇相手や目的を意識して、情報の収集や内容の検討をする。…(4)
- ◇考えを工夫してまとめ、話合いに臨む。…(5)
- ◇段落の役割を理解する。…(4)

「課題」

- ▲修飾語について理解する。…(4)(5)
- ▲漢字の筆順について理解する。…(5)
- ▲ことわざを正しく活用する。…(5)
- ▲話合いの目的に応じた適切な進行を理解する。…(5)
- ▲情報の整理の仕方を理解する。…(5)
- ▲複数の資料（情報）を比較し、必要な情報を取り出す。…(5)
- ▲文章の中から必要な情報を見つけ、書き抜く。…(4)(5)
- ▲目的に応じて、資料の中から必要な部分を見つけ、条件に即して書く。…(4)(5)

〈改善のポイント〉

- ①言語環境の整備に継続的に取り組み、語句を意図的に使う場の設定
 - 語彙の質と量の改善を図るために、教師の話、資料・書籍、掲示等を充実させる。
 - 読書、音読、視写・聴写、短作文等、楽しく反復できる手立てを増やす。
- ②子供の興味・関心や必要感を踏まえ、主体的に取り組むことができる単元の構想と展開
 - 実生活との関連を踏まえて言語活動の目的や学習課題を明確にする。
 - 定着に課題がある指導事項を明確化し、子供の実態に即して、学習過程を弾力的にし、螺旋的・反復的に繰り返したり取り立てたりして指導する。
 - 言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関連付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。
 - 子ども一人一人のつまずきを捉え、指導と評価の一体化を図る。
 - 多様な条件で書く経験を積み重ねる。
- ③身に付けた国語の資質・能力や学習内容をICTの活用等により自覚化を図る指導の充実
 - 「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ICTの利用等により共有して学びを深めさせる。

小学校算数（令和6年度）

(1) 徳島県の「全体」と「各領域別」平均正答率

4年生	全体	数と計算	図形	測定	データの活用
	50.5	57.2	46.2	47.3	43.5
5年生	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
	57.7	61.6	37.2	73.0	48.8

(2) 結果分析及び改善のポイント

(4)…4年生、(5)…5年生

「成果」

- ◇小数の減法の計算をすることができる。…(4)
- ◇数直線から数値を読み取ることができる。…(4)
- ◇計器の目盛りを適切に読むことができる。…(4)
- ◇棒グラフから特徴を読み取ることができる。…(4)
- ◇簡単な場合について、同値分数があることを知っている。…(5)
- ◇割合の意味を知っている。…(5)
- ◇倍を用いて、数量関係を表すことができる。…(5)

「課題」

- ▲図形の構成要素に着目し、分解することができる。…(4)
- ▲分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することができる。…(4)
- ▲最大値に着目して、示された目盛りでは表すことができない理由を説明することができる。…(4)
- ▲示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを説明することができる。…(4)
- ▲示された場面から図形の構成要素に着目し、必要に応じて図形の長さを判断することができる。…(5)
- ▲データを2つの観点から分類整理することができる。…(5)
- ▲示された表から必要なことを読み取ることができる。…(5)

〈改善ポイント〉

- ①児童に「問題解決の過程」を価値付け、教師があえて意味や根拠を問う。
 - 教師が補足説明するのではなく、教師があえて全体に問い返すことにより、児童が意味や根拠について考え、児童が説明する頻度を上げる。「答え」が出たら終わりではなく、「どうして～さんはこのように考えたのかな」と全体に問い、完成した図や式ではなく、完成に至るまでの考え方を共有できるようにする。
 - 数値を変えるだけなど、なぞりの問題ではなく、解決の過程を図（テープ図、液量図、線分図、数直線図、ベン図、矢印など）で表し、説明する問題を設定する。
- ②ICTの活用により、図形の分解を可視化する。
 - 構成した図形を画像に撮り、その中に見いだした他の図形をペンで囲む等、可視化する場を低学年から積み重ねる。
- ③基準量は図で表す。
 - 「簡単な場合についての割合」や「小数倍」などの単元において、基準量を1とした見方ができるように、基準量と比較量を図で表したり、多様な1の大きさから比較量を作り出したりする場を設ける。全学年通して「基準量×割合＝比較量」を意識した授業を行う。
- ④目的に応じて、二次元の表を用い、その有用性を感得できるようにする。
 - 二次元の表の中の数は、縦の項目と横の項目の両方の意味をもっていることを確実に理解できるようにする。また、表のどの部分に着目し、どのようなことを読み取ったのかを説明する場を設ける。

中学校国語（令和6年度）

（1） 徳島県の「全体」と「各領域別」平均正答率

	全体	知識・技能	話す・聞く	書く	読む
1年生	55.9	71.8	52.0	41.3	46.1
2年生	53.9	52.4	68.3	38.9	56.1

（2） 結果分析及び改善のポイント

（1）… 1年生、（2）… 2年生

「成果」

- ◇漢字（往復・納品）を文の中で正しく使う。…(1)
- ◇接続する語句の役割について理解する。…(1)
- ◇言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。…(1)
- ◇物語の全体像を具体的に想像し、自分の考えをまとめる。…(1)
- ◇目的や場面に応じて質問する内容を検討する。…(2)
- ◇文章の中心的な部分と付加的な部分について情報を整理し、叙述を基に捉える。…(2)
- ◇文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する。…(2)

「課題」

- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。…(1)
- ◆集めた材料を関係付けて、伝えたいことを明確にする。…(1)
- ◆文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。…(1)
- ◆表現の効果を考える。…(1)
- ◆複数の叙述を結び付け、登場人物の心情について自分の考えをまとめる。…(1)
- ◆言葉の単位（単語）について理解する。…(2)
- ◆聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる。…(2)
- ◆読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。…(2)
- ◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。…(2)
- ◆文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える。…(2)
- ◆文章の展開や構成、表現の効果について、根拠を明確にして考える。…(2)

〈改善のポイント〉

- ①基礎・基本を定着させるため、既習事項を活用する場面を設定する。
 - どの指導事項の定着に課題があるのかを明らかにして、指導計画等に反映させる。
- ②言葉による見方・考え方を意識した授業展開を考える。
- ③指導事項が身に付くような効果的な言語活動を設定する。
- ④主体的に学習に取り組めるような工夫をする。
 - 日常生活から題材を探す等、実生活と関連させる。
 - ICTの活用等により、考えを共有させる。
 - 分かりやすい板書や学びの蓄積となるノート指導の工夫をする。
- ⑤振り返りを重視する。
 - めあてとの関連を意識した、書くことによる振り返りをさせる。
 - 自身の授業を振り返り、次の指導に生かす。
 - 「努力を要する」状況の生徒への手立てを考える。

	*%'	**" &	*% &	*%' '), ")
	(*" (*% &) (" \$	' (" &	' *"%

f%Æ

f&Æ

